

第三者委答申を 市民団体が批判

大分大の学部長選考

大分大（大分市、北野正剛学長）の経済学部長選考に関して同大学の第三者委員会が「学部の要項とその運用は大学規定に抵触する」と答申したことを受け、市民団体が20日、調査過程や答申内容を批判する文書を大学に提出した。

答申では学部要項が、教授会が選挙で学部長候補を選ぶと定めた旧制度を抜本的に改めて制定された現行規定に「明らかに矛盾している」などとした。

団体は同大学の元教員や現職教員、学生、一般住民らでつくる「大分大学のガバナンスを考える市民の会」（神戸輝夫代表）。文書で、第三者委は「学長の規定違反を隠蔽した」「学部要項は大学規定を補完するもので抵触はしない」などと訴えた。

神戸代表らは県庁で会見し、「学長の判断や一連の行動は問題視すべきものだ」と述べた。



12. 21 大分合同新聞

第三者委の答申内容や調査過程を批判する神戸輝夫代表（右）ら

経済学部長の任命を巡って大分大学が揺れています。OBで作る市民グループは、第3者委員会の調査が公平性に欠けているとして、説明を求めています。今年10月の経済学部長交代の際、北野正剛学長は、学部が選挙で選んだ候補者とは別の教授を任命しました。学部長について経済学部の要綱では「教授会の選挙で候補者を選ぶ」となっていますが、大学は2015年に「学長が任命する」と大学規程を改めました。第3者委員会は12月、経済学部の要綱が大学規程と矛盾していると結論付けました。

大分大学・北野正剛学長：「他の学部は上位規程（大学規程）にあわせて、（要綱を）廃止していた。経済学部は廃止していなかったことが一番の原因」これに対しOBで作る市民グループは、選挙結果は学部の教授の意思を集約したもので、大学の規程と矛盾しないと主張しています。大分大学のガバナンスを考える市民の会 神戸輝夫名誉教授：「正しく起こった事態を調査委員会が公平に見ていない」



13 : 30 大分大学へ文書提出



12. 20 18 : 20 OAB大分朝日放送

